



様式第4号 (第7条関係)

令和6年7月17日

東かがわ市議会議長
渡 邊 堅 次 様

東かがわ市議会議員
(会派)・個人・その他)
氏名 工 藤 正 和

行政視察等報告書

1	日 時	令和6年7月1日～7月2日	
2	参加者	工藤正和 大田稔子 橋本守 堤弘行 田中貞男	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		リノベーションまちづくり推進事業	千葉県館山市
		地場産業「行田足袋」への支援等について	埼玉県行田市
4	研修・調査内容	リノベーションまちづくり推進事業は、「取り組んだ背景等についての調査」 地場産業「行田足袋」への支援等については、「近年の業界の推移と足袋製造の現地調査」	
5	研修成果	別 紙 (感想・今後の取り組み等)	
6	費 用	金 88,704円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

行政視察報告書

報告者：工藤正和

1. 令和6年7月1日（月）

千葉県館山市 リノベーションまちづくり推進事業について

「研修成果」

館山市は、有休不動産の有効活用や、まちづくりに関わる人材の育成などを目的として、令和元年度から館山駅東口エリアのリノベーションまちづくり事業を実施してきた。その拠点施設である、sPARK tateyama での研修は、リノベーションの臨場感を味わえた。

館山市の現状と課題が「過度な人口減少」「雇用における人材不足」「空き店舗・空地の増加」「若者の市外流出」である。これを打破するために「リノベーションまちづくり」が進められている。

東かがわ市においても空き家、空き店舗が多く大きな課題となっている。館山市のように民間と行政が連携し、同じ方向へ進むためにまちづくり構想を策定し、まちづくり構想策定委員会等の設置を行い、課題解決と新たなまちづくりに取り組むべきと考える。今回の視察で感じたことは、リノベーションされた施設が市内に点在しており、改めて点が線にならないと難しいと認識した。また、リノベーションまちづくり構想策定会議を組織する委員のマンパワーが重要であり、事業の展開には行政の関わりは必要であるが、行動できる人材が何よりも重要であると感じた。

2. 令和6年7月2日(火)

埼玉県行田市 地場産業「行田足袋」への支援等について

「研修成果」

行田足袋は、広く知れ渡り、最盛期の昭和13～14年には全国の約8割の足袋を生産するまでに発展した。それと共に明治時代後半から足袋蔵が次々と建てられ、関東で一番の足袋の産地となった。更に、明治以降に足袋が大量生産され、ストックしておくために町中に蔵が建ち始め「足袋の町」「蔵の町」となった。

現在残っている市内の足袋業者は11社のみで、各工場では職人の高齢化が進み、その中でも後継者が少なくなってきた。

行田市の日本遺産は足袋蔵もあるが、構成文化財の「忍城」「埼玉古墳群」からの観光客の回遊策として取り組みを行っている。

忍城は映画「のぼうの城」(2012年上映)、テレビドラマ「陸王」(2017年放送)の舞台となったことと、日本遺産認定が重なったことで観光客は一時的には増えたが、その後、右肩下がりで観光客が減少した。

行政が主導ではなく、民間が主体となっており、行政と民間連携が大事となる。補助金主体で考えず活動し、後から補助金が付くような活動が、一番望ましく、重要であると感じた。

本市においても来年は瀬戸内国際芸術祭が開催され、市内外から多くの人を訪れると推測するが、観光客だけでなく、市民が幸せに暮らせてこそその観光であり、市民が楽しいまちであるから、来る人も楽しめるまちを目指し取り組まなければならないと強く感じた。

以上